

3学期の過ごし方

今日は、1月の全校朝会がありました。コロナの感染対策として、リモートで行いました。そこで、子どもたちに、次のような話をしています。



『ひとりがこまれば』の詩を紹介しています。

《1月の朝会：校長の話より》

みなさん、おはようございます。

「1月はいく。2月は逃げる。3月はさる。」とよく言われますが、今日を入れて、3学期はあと何日登校すると思いますか。

6年生は45日、5年生以下は46日です。

そして、この3学期をどう過ごすかが、次の学年のスタートにおおに関係しています。

この3学期は、今の学年の締めくくりをする大切な学期でもあり、次の学年の準備をする学期でもあります。

4月からみなさんは1つ上の学年に進級しますが、『いま』を大切に、今のうちから次の学年の準備をしてもらいたいと思います。

今できないことが4月から急にできるようになるというのは、なかなか難しいことです。

4月に、どんなスタートをきりたいかをイメージしながら、この3学期を大切に過ごしましょう。

兵庫県の出身の小西健二郎さんの詩を、みなさんに紹介します。

『ひとりがこまれば』

小西 健二郎

ひとりがこまれば みんなで助け
 ひとりの問題を みんなで考え
 ひとりのよろこびを みんなでよろこび
 肩をたたきながら 進むぼくたちです。

ひとりのたりないところは みんなでおぎない
 ひとりが進めば みんなが進み
 みんながみんなを 良くしあいつつ
 肩をくんで進む わたしたちです。



『たんばの子ども より』

《1. 17 児童会活動より》

ちょうど27年前の今日、阪神淡路大震災が起きました。地震による影響で沢山の方が亡くなりました。その中のひとりが、当時11歳の加藤はるかさんです。そして、はるかさんの自宅跡地に一輪のひまわりが咲きました。それが、はるかのひまわりです。はるかのひまわりの種はこれまでたくさんの方が植え、その度ごとに命のバトンが受け継がれてきました。



平荘小学校の今年のスローガンは、『命をつなぎ心もつなぐ笑顔広がる愛ある平荘小』なので、児童会では、人の命も植物の命も同じで命のバトンを次は自分たちで繋げないといけないことが一番大切だと話し合いました。いろいろな人と活動をする事で、みんなが笑顔になったと感じました。また、種をしつかりと育てる責任があると実感しました。

そして今、はるかのひまわりの種がぼく達の平荘小学校にやってきました。皆さんに協力してもらい沢山の花が咲き、たくさんの種が取れました。その種がこれです

皆さんのおかげでたくさんの種が取れました。ありがとうございました。

私達は、このはるかのひまわりの活動を繋げていくために、もちろん、この平荘小学校にもみんなで育てたひまわりの種を残しますが、このはるかのひまわりの種を他の学校にも送ります。

それから、このひまわりの種をくれた赤碕小学校に送り返したり、5・6年生と交流している台湾のギャンピン小学校にも送ったりしました。入学してくる1年生や卒業する6年生にも渡したいと思っています。

この取り組みをして全校生と繋がり、前よりももっと仲良くなれたと思います。これからも、もっと仲のいい平荘小学校にしていきましょう。

さて、皆さんはこの取り組みをしてどうでしたか？感想を言える人は手を挙げてください。

はるかさんと阪神淡路大震災で亡くなった方々のご冥福を祈り、黙祷をします。私が黙祷と言ったら目をつぶってください。

《黙祷》

なおいれ
これで児童会からのお知らせを終わります。

1月18日の給食です

1月18日(火)の給食の献立は、麦ご飯、牛乳、防災カレー、フルーツミックスです。今日は、『食』を通じて、備蓄について、緊急時の非常食について等、防災の学習をしました。



《2年生の感想より》

わたしが地しんの話を聞いて思ったことは地しんはこれ、ものとは知っていたけどはんしんあわがしんさいの話を聞いて、たまたまで何千人がしんでしまったといふことにおどろきました。なう先のことか人にはわからないういなる後にはわからないとわかんないんだなと思います。

わたしは、西のきせんいのほなしをきいて、つんえの下にかくれる。本だなのむき、をかえる。のびわかりました。わたしは、こあち、うせんいのほなしをきいて、はるかちゃんめ、このはながな、な、た、く、な、う、ま、い、た。もししんが、おきたらわたしは、たいど、かんにひなんをします。